

教科等研究会（小学校外国語部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを伝え、
楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	小中合同研修	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/7	28人	高木小	8/5	益城中		11/12	御船小	稲葉由夏 教諭	1/23	広安小	作田美来 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマと研究の視点の設定及び研究組織づくり（期日：令和6年6月7日 場所：高木小学校）

ア 研究テーマと研究の視点の設定

今年度の研究テーマを「主体的に自分の考えや思いを伝え、楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」と設定した。そして、研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行うこととした。

＜研究テーマに掲げる子どもの姿を目指すための授業づくりの視点＞

(1) コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定

(2) 外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実

※「音声から文字へ」を意識

(3) 言語活動の充実

② 授業づくり研修（期日：令和6年8月5日 場所：小坂小学校）

夏季休業中の期間に、小中合同で研修を行った。研修では、まず熊本県教育センターの栗原指導主事から講話をいただき、その後に、中学校区単位で情報共有を行った。小中合同の研修が開催できたことで、小学校と中学校それぞれが、互いの英語授業や取組について理解を深める良い機会となった。

③ 外国語活動の授業実践（期日：令和6年11月12日 場所：御船小学校）

第6学年「Where is it from?」の授業実践を行った。「私のものはどこから？クイズ大会」という単元のゴールに向かって児童が「わくわく」するような単元デザインがなされていた。授業では、児童が単元のゴールに向かって意欲的に英語でやり取りをする姿が見られた。授業研究会では、成果と課題を出し合い、改善策までを話し合うことができ、学びの多い研修になった。

④ 外国科の授業実践（期日：令和7年1月23日 場所：広安小学校）

第3学年「What's this?」の授業実践を行った。授業では、「3ヒントクイズ大会をしよう」という単元のゴールに向かって、児童が意欲的にやり取りをする姿が見られた。チャンツや歌、主活動のどれにおいても、音声やリズム、ジェスチャーを強く意識して授業が進められており、本研究テーマに迫る学びの多い研修になった。

(2) 成果と課題（成果○ ▲課題）

○ 授業づくりの視点を明確にしたことで、授業実践の際に、それらを意識した指導の工夫がなされるようになった。また、事前研にも多くの先生方の参加があり、充実した事前研となった。

○ 「本物だからこそやる気になる」というアイデアがたくさんつまった研究授業で、学び多い研修ができた。6年生の実践では、自分の本当に持っている持ち物を写真で撮ったものをクイズにするし、さらに、ZOOMで他校とやり取りするという工夫。3年生の実践では、校長先生にクイズを出すという工夫があり、どちらの実践も児童の学ぶ意欲を高めるのに大変効果的であった。

○ 事後研究会でも、活発に意見が出され、非常に質の高い意見ばかりで、授業者にとっても部会員にとっても学びの多い研究会となった。特に、以前から課題だった「音声から文字へ」も非常に意識されており、教師の意識の変容は、上益城の英語教育の向上につながった。

▲ 夏季研修を、中学校と合同でできたことは良かったが、地域間や小学校中学校間でも外国語科の授業づくりについては、様々な実態や教師の意識の差があることが明らかとなった。外国語の授業づくりについて学び、さらに理解を深めるためにも、夏季研修の内容をさらに工夫していく必要がある。

4 実践事例（期日：令和6年11月12日 場所：御船町立御船小学校）

(1) 授業の概要（授業者 稲葉 由夏 教諭）

本単元では、単元のゴールとなる言語活動として「私のものはどこから？クイズ大会」を設定した。最終ゴールを小坂小学校（他校）とすることで、より相手に伝わるように工夫しようという児童の思いが高まっていた。また、学習課題の解決に向けて、歌やチャンツなどを音声で十分に慣れ親しみ、「This is my ～. Where is it from?」などの表現を使ったやり取りを友達と繰り返しながら、最後のクイズ大会に活動につなげることができた。

本時では、ALT のクイズや担任のオリジナルチャンツを行うなど、音声で表現に慣れ親しませる工夫がなされていた。また、主活動として、友達とクイズを出し合う活動を行う中で、中間指導をしっかり位置付けてあり、本時の目標を達成するための指導も行われていた。クイズの出題には、タブレットを用いるなど、効果的な ICT の活用もされていた。

(2) 学習構想案

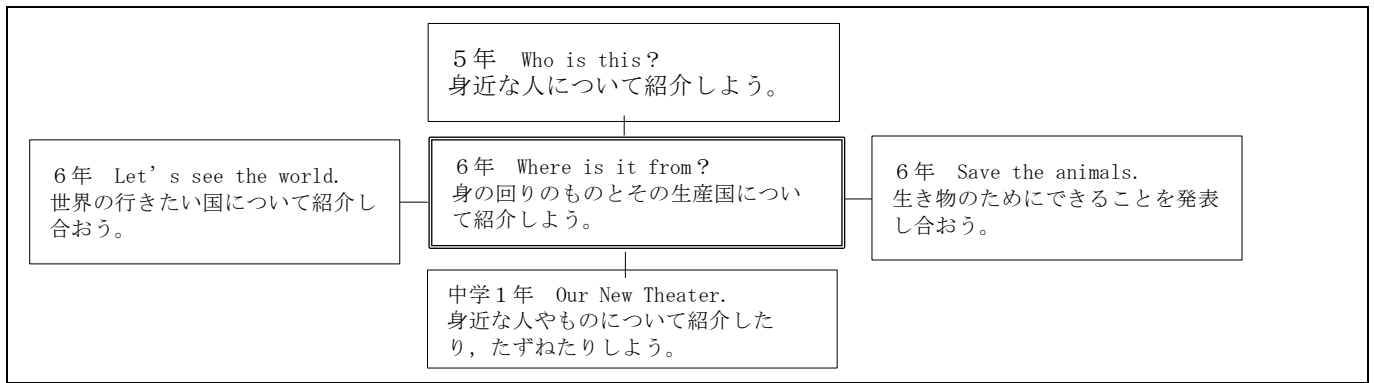
1. 単元の構想

単元名	NEW HORIZON Elementary6 Unit5 「where is it from?」 (東京書籍 p 48～p 59)		
単元の目標	(1)身の回りのものの生産国について、聞いたり話したりすることができる。【知識及び技能】 (2)身の回りにあるものや日本と世界のつながりを知るために、身の回りのものとその生産国について自分の考えや気持ちを話すことができる。【思考力, 判断力, 表現力等】 (3)相手に伝わる工夫をしながら、身の回りの生産国について話そうとしている。【学びに向かう人間性等】		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「聞くこと」(ウ) 【知識】This is..., It's from..., 国名 is in 地域, およびその関連語句について理解している。 【技能】身の回りのものとその生産国についてのやり取りを聞いて, 概要を捉える技能を身に付けている。	「聞くこと」(ウ) 自分たちと世界とのつながりをよく知るために, 身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話を聞いて概要を捉えている。	「聞くこと」(ウ) ・自分たちと世界とのつながりをよく知るために身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話の概要を聞き取ろうとしている。
単元の評価規準	「話すこと(やり取り)」(イ) 【知識】This is... It's from... 国名 is in 地域, およびその関連語句について理解している。 【技能】身の回りのものとその生産国について, This is... It's from... 国名 is in 地域, およびその関連語句を用いて, 考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。	「話すこと(やり取り)」(イ) 自分たちと世界とのつながりをよく知るために, 身の回りのものとその生産国について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 考えや気持ち等を伝え合っている。	「話すこと(やり取り)」(イ) 自分たちと世界とのつながりをよく知るために, 身の回りのものとその生産国について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
	単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）		
身の回りにあるものや日本と世界のつながりを知るために、私のものはどこから？クイズ大会を通して、6年1組や小坂小学校の友達に伝わる工夫をしながら、自分の考えや気持ち伝え合っている児童。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
身の回りにあるものや日本と世界のつながりを知るために、私のものはどこから？クイズ大会をしよう。		6年1組や小坂小学校の友達によく伝わるように、内容や表現を工夫しながら、身の回りのものの生産国について伝え合うこと。	
指導計画と評価計画（8時間取扱い 本時3/8）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○ALTのクイズなどをし、自分の身の回りにあるものの生産国に興味を持つ。 ○単元のゴールを知り、学習の見通しを持つ。	
二		○自分の身の回りにあるものとその生産国について伝えている。	「話すこと(やり取り)」(イ) 【知識・技能】(行動観察) This is... It's from... を理解し、自分の身の回りにあるものを

			伝えようとしている。
	1	○友達に質問して、自分の身の回りにあるもとその生産国について伝えている。(本時)	「話すこと(やり取り)」(イ) ※指導に生かす評価 【知識・技能】 This is … . Where is it from? It's from…国名, について理解し、自分の身の回りのものとその生産国について伝えようとしている。
	1	○自分の身の回りのもとその生産国、その国のエリアを伝えている。	「話すこと(やり取り)」(イ) 【知識・技能】 This is…. It's from…. 国名, Where is it from? A is in B. について理解し、自分の身の回りのものとその生産国について詳しく伝えようとしている。
	1	○私のものはどこから?クイズ大会をするために、プレゼンを作り、それをもとに練習する。	「話すこと(やり取り)」(イ) 【知識・技能】 ★This is… . It' s from… . 国名, Where is it from? A is in B. について理解し、自分の身の回りのものとその生産国について詳しく伝えようとしている。
	1	○クラスで私のものはどこから?クイズ大会をする。	「聞くこと」(ウ) ★【思考・判断・表現】/【主体的に取り組む態度】 自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国についてのやり取りや短い話の概要を捉えている(聞き取るようとしている)。
	1	○6年1組の友達と私のものはどこから?クイズ大会をする。	「話すこと(やり取り)」(イ) ★【思考・判断・表現】/【主体的に取り組む態度】 自分たちと世界とのつながりをよく知るために、身の回りのものとその生産国について伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。(伝え合おうとしている)。
三	1	○6年生のみんなとクイズ大会をして、世界とのつながりについて考える。 ○単元を通して学習したことや自己の学びの変容を振り返る。	「聞くこと」(ウ) ★【知識・技能】(行動観察) This is… . It' s from… . 国名, Where is it from? A is in B. などの表現について理解し、身の回りのものとその生産国について聞き取る技能を身に付けている。

2 単元における系統

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領 2内容 [知識・技能] (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 「思考力・判断力・表現力等」 (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ア 聞くこと (ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。 エ 話すこと [やり取り] (イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。	
教材・題材の価値	
本単元は、日本と世界のつながりをテーマにした学習である。世界の国旗について興味がある子どもたちにとって、関心をもって取り組める内容であると考えられる。単元のゴールは「私のものはどこから?クイズ大会をしよう」とした。児童は、単元のゴールに向かって、新出表現や既習事項を使いながら、自分の気持ちや考えを伝え合うだろう。また、クイズ大会をすることで、楽しみながら取り組めるだろう。クラスや隣のクラスの友達や小坂小学校の友達に伝えるという目的意識をもって、自分が伝えたいことを見方・考え方を働かせながら表現し、学習を進めていくことを期待している。	
本単元における系統	



3 研究の視点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

研究テーマ
主体的に自分の考えや思いを伝え、楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
授業づくりの視点についての取り組み
<p>①コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の身の回りにあるものを紹介し、日本と世界のつながりを知るために、「私のものはどこから？クイズ大会をしよう！」という単元のゴールを設定し、単元のゴールを児童と共有することで、学習への見通しと意欲の継続につなげる。 ○自分の身の回りのものと生産国について調べ、オリジナルのクイズを作ることで、クラスや隣のクラスの友達と小坂小学校の友達にクイズを通して自分のものとその生産国について伝えたいという相手・目的意識をもたせる。
<p>②外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音声から文字への流れを基本とした授業づくりを行う。リスニングでは、すべての単語を聞き取ろうとせず、強勢の置かれるキーワードを掴ませるようにする。文字情報は音声理解が十分にできた後で与えるようにする。 ○英語のリズムを大切にしながら指導を行い、歌やチャンツを活用しながら楽しく学習できるようにする。
<p>③言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人・ペア・全体での学習形態や中間指導を効果的に取り入れることで、個人の表現力を高められるようにする。 ○教師のやり取りを聞いたり、教師や友達とやり取りしたりする活動を繰り返しながら、言語活動を通して、本単元で必要な資質や能力を育成していく。

4 本時の学習

(1) 目標

自分の身の回りにあるものを紹介したり、どこの国なのかを聞いたりすることについて、教師の話や友達と何度もやり取りを通して、伝え合うことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 英語学習の雰囲気づくりとこれまでの学習の振り返りをする。 (1) Greeting (2) Let's Sing 2 Sounds and Letters 3 めあての確認 【Today's goal】 自分の身の回りのものとその生産国について友達と伝え合おう。	○歌の指導では、身の回りにあるものや国の名前を焦点化し、カードを用いて練習をする。 ○文字の音を何度も聞いたり発音したりしながら、文字に慣れ親しむようにする。 ○単元のゴールに向かって学習できるようにする。
展開	30分	4 教師のやり取りを聞く 5 身の回りにあるものを紹介するための言葉を練習する。 6 デモンストレーション 7 自分の身の回りのものを紹介し合う。 (1) セルフトーク (2) やり取りをする。 (3) 中間指導① (4) ペアを変え、やり取りをする。 (5) 中間指導② (6) ペアを変え、やり取りをする。 (7) チャレンジタイム 【やり取りの例】 A: This is my T-shirt. Where is it from? B: (Is it) America? A: No! It's from New Zealand. やり取りする中で、既習事項を使い会話を続けていく。 I like ~. Do you like ~?, Can you guess? B: Wow! That's nice. 【期待される学びの姿】 ◇自分の身の回りにあるものやその生産国について This is ~. Where is it from? It's from ~. の表現を使って、意欲的にコミュニケーションを楽しんでいる。	○目指す姿を具体的に示すことで、児童に学習の見通しを持たせる。 ○This is my ~. Where is it from? It's from ~. の言い方をリズムよく何度も練習することで、安心して自分のものを紹介することができるようにする。 ○自分の身の回りにあるものを伝え合うために、練習したことが実際にできるか自分で確かめる時間をつくる。 ○身の回りにあるものの写真や実物を見せながら、This is ~. Where is it from? It's from ~. の言葉を使って何度も伝え合う。 ○中間指導①では、分からない表現や言葉がなかったかを確認する。 ○中間指導②では、やり取りの中で工夫が見られた児童を紹介し、既習事項を使って楽しくコミュニケーションができるようにする。 ○中間指導の際に、英語の文章で強く読むところを確認し、何を伝えたいのかを明確にする。 ○友達の発表を聞いて、自分の感想を一言コメントで返すことができるように、レスポンスカードを出し、やり取りの際に使うことができるように促す。 ○チャレンジタイムでは1~2人の児童に発表させる。特に、発表の内容面(表現・順序)について焦点を当て、良さを取り上げて全体で共有する。 【到達していない児童への手立て】 1回目の発表では、前時まで学習した表現が十分に言えない児童もいると予想される。児童の困り感から必要に応じて全体指導を行い、自信を持って2回目の活動へ取り組ませる。 【具体の評価規準】観点 ※指導に生かす評価【知識・技能】 身の回りのものの生産国について紹介するために、 This is... Where is it from? It's from... およびその関連語句を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。
終末	5分	8 学習の振り返りを行う。 ◇自分の身の回りにあるものやその生産国について分かりやすく伝えることができた。 ◇まだ出てきていない国のものがないか調べてみよう。	○本時の学習で気づいたこと、分かったことなどについて振り返らせる。児童の振り返りをもとに、次時の学習について、課題を共有する。 ○指導者がよかった点を褒め、児童に達成感を持たせる。